

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	4/25 (月)	4/26 (火)	4/27 (水)	4/28 (木)	4/29 (金)
無担保O/N		△0.086%	~ 0.001%		
銀行券	△ 1,000	△ 3,000	△ 3,000	△ 3,000	
財政他	△ 600	+ 4,000	△ 1,000	△ 10,000	
資金需給	不 1,600	余 1,000	不 4,000	不 13,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(20年)			交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 3,700 CP等買入 △ 500 社債等買入 △ 300 国債補完供給 + 400			共通担保(全店) △ 6,200	
オペスタート	共通担保(全店) + 3,200	短国買入 + 15,000 国債買入 + 11,900 社債等買入 + 1,000			祝日
(日本)	企業向けサービス 価格指数(3月)		日銀金融政策 決定会合(1日目)	日銀金融政策 決定会合(2日目) 展望レポート公表 黒田日銀総裁会見 基調的なインフレ率を捕捉 するための指標(速報) CPI(全国3月、都区部4月) 完全失業率(3月) 有効求人倍率(3月) 住宅着工統計(3月)	
(海外)	米 新築住宅販売件数(3月) 独 Ifo景況感指数(4月)	米 FOMC(1日目) 米 S&P/ケース・シャー住宅 価格指数	米 FOMC(2日目) 米 中古住宅販売成約指数 (3月)	米 新規失業保険申請件数 米 1-3月GDP 欧 ユーロ圏景況感指数(4月)	米 シカゴ大学消費者 マインド指数(4月) 欧 ユーロ圏失業率(3月) 欧 ユーロ圏CPI(4月) 欧 ユーロ圏1-3月GDP 米 NY連銀総裁講演(5/1)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.08 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.08 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.08 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.08 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初284兆円台で始まり、19日に国庫短期証券・国債買入オペを主因に286兆円台まで増加し、その後は国庫短期証券・国債発行等財政要因から減少し、週末には282兆3,300億円となった。無担保コールON物は、オファーサイドの一部がマイナス金利での放出を開始したことからレート低下し、週を通して△0.086~△0.05%のレンジで取引された。このような動きから同金利の加重平均は△0.081~△0.074%で推移し、21日に過去最低を更新した。ターム物は1W~1Mの期間で△0.07%台が取引されるなど、ON物同様にレートの低下が見られた。18日に公表された業態別の日銀当座預金残高によると、3月積み期の政策金利残高部分が29兆7,240億円と2月積み期対比で7兆4,210億円増加した。来週の予定は国内では、日銀金融政策決定会合(27-28日)、展望レポート(28日)、CPI全国3月(同)、海外では、FOMC(26-27日)、米1-3月期GDP(28日)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.30 ~ △0.10
現先(on/1w)	△0.10 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約10,100億円で、期落ち額約3,300億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に上回った。幅広い業種で大型の発行案件が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は約11,100億円程度となっている。

<TDB>

21日に国庫短期証券3M第603回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.1924%(前回債△0.1447%)、平均落札レートは△0.2044%(前回債△0.1689%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.06%のオファーで出合には至らず。6Mは目立った出合は見られず、1Yは△0.30%近辺の地合いとなっている。来週は27日に3Mの入札が予定されている。

<レボ>

足許GCは、週初△0.10%近辺での出合い。短国3Mと利付20年債の発行日となる25日受渡もレートの上昇には至らず、短国・国債買入れオペが2兆6900億円オファーされた26日受渡しでは、オペの結果を受けてオファー・ビッドが離れる時間帯もあったが、最終的には△0.10%近辺が出合いの中心となった。SC取引では10年340回債はO/N物が△0.40%台半ば~△0.50%近辺の出合い。10年341回債はO/N物で週初△0.10%台の出合いだったがbidニーズが増加、△0.30%~△0.40%近辺までレートが低下した。10年債336・337・338回、30年債50回、40年債50回に引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。